

心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科後期研修プログラム

1. 概要

和歌山県立医科大学外科学第一講座は心臓血管外科部門と呼吸器外科・乳腺外科の腫瘍外科部門の二部門からなり、2年間の卒後研修終了後はそれぞれの専門分野に分かれて研修を行います。大学での研修ではそれぞれの分野の専門医となることを目指しますが、関連施設で一般・消化器外科の修練を積むことによって幅広い外科的知識を得られ、まずは外科専門医を取得します。そのため外科志望の方には卒後の早い時期に日本外科学会に入会し、専門医の修練開始を登録することをお勧めしています。

心臓血管外科の後期研修では、先天性心疾患、後天性心疾患（虚血性心疾患、弁膜症など）、大血管、末梢血管を偏り無く経験することを目標とし、心臓血管外科医としての基礎固めを行います。開心術は年間220例程度有り、十分な研修が可能です。またこの期間を利用して、視野をさらに広げるため、国内の心臓血管外科専門施設での研修も積極的に勧めています。

呼吸器外科・乳腺外科部門は、主に肺・縦隔疾患と乳癌を扱い、学外の一般外科修練施設とシームレスな関係を持って外科専門医から呼吸器外科専門医、乳癌専門医を目指します。また外科でありながら抗癌剤化学療法も数多く行っており、腫瘍に対する集学的な治療から緩和医療・ターミナルケアに至る幅広い領域を経験することが出来ます。

各部門の壁を越えた研修も可能としており、外科専門医認定に必須である心臓大血管・末梢血管・呼吸器・乳腺・小児を全て当科における研修で経験することが出来ます。

2 . 研修期間

原則として4年間

3 . 研修内容

心臓血管外科 :

主として2 年間は関連施設または県立医科大学附属病院学内助教として心臓血管外科手術の周術期管理を行います。手術手技としては大腿動静脈の剥離、冠動脈バイパス術の大伏在静脈グラフト採取、胸骨正中切開、末梢血管バイパス術などの基本的な手術を習熟度に応じて行います。

呼吸器外科・乳腺外科 :

研修する人数によって1~2 年単位で大学附属病院での研修と関連施設での一般消化器外科研修を交代で行います。附属病院では気管支鏡検査、胸腔ドレナージ、開胸・閉胸、胸腔鏡下の肺部分切除術や気胸手術などの基本的な手技・手術を指導医のもとで行い、習熟度に応じて肺葉切除など高度な手術も行えるようになります。乳腺外科手術では比較的早期から乳房切除や乳房部分切除を行います。腫瘍外科の

性格上、外科的治療ばかりでなく呼吸器内科や放射線科と協力しての抗癌剤化学療法、放射線治療症例があり、また当科単独でも相当数の化学療法を経験することが出来ます。特に乳癌治療においては診断から治療までを一貫して行っており、最先端の治療を多数経験することが出来ます。関連施設での経験も含めて、呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、癌治療認定医、乳腺専門医、乳癌検診マンモグラフィー読影医師等の資格を得ることが可能です。

両部門ともに年2～3回以上の学会発表および学術論文の作成が出来るように指導します。

また希望に応じ、国内外の先進的な施設で2～3年間研修をすることが可能です。過去に派遣した研修・研究施設としては国立循環器病センター、国立がんセンター、榊原記念病院心臓血管外科、英国Institute of Child Health、University of London、米国ハーバード大学ボストン小児病院、同じくUSCD medical center、テキサス大学などがあげられます。

当科の概要につきましては和歌山県立医科大学ホームページのリンクから「外科学第一講座ホームページ」をご覧ください